

[CASE 08]

菅井 和貴さん

朝日町消防団 第1分団第3部

地域を守っていききたい そう思える消防団活動



町

内で農業を営んでいる菅井さんは、知人から誘われて入団。消防団は地域を守るだけでなく、自己成長につながる場所だと言います。

「職業柄一人で過ごす時間が多く、誰かと接する機会はあまりありませんでした。しかし入団してからは幅広い年代の人と交流する機会が増え、コミュニケーション能力が向上しました。仕事の悩みを相談できる先輩もいるので、私にとって消防団は充実感をもたらせてくれる場所です」

消防団の活動は、自分のためにもなっていると言う菅井さん。活動が続ける中で地域の人から温かい言葉をかけてもらった時に、この町を守り続けていきたいと強く感じるそうです。

「仲間と協力して災害から町を守ることができた時にやりがいを感じるのはもちろん、住民の方が『この前の火災大丈夫だった?』と心配してくれたり、感謝の気持ちを伝えてくれた時に、これからもこの町を守っていききたいと感じます。そのためにも後輩の育成に力を入れ、消防の知識と技術を継承していくことで活動を続けていきたいですね」

Q1 入団前と比べて変わったことは?

物事に対しての考え方が幅広くなりました。何も考えずに活動していると、不測の事態が起こった際に対応が遅れてしまい、町に危険を及ぼしてしまう恐れがあります。複数の選択肢を持つことで臨機応変に行動ができるので、消防団は応用力がとても鍛えられる場所だと感じています。



Q2 仕事や私生活と両立できますか?

もちろんできます。私は農業を営んでいるのでどうしても収穫の時期などは忙しくなってしまいますが、消防団活動は支え合って行うものなので、その場合は仕事を優先することができます。仕事や私生活の時間も配慮してもらえますよ。



消防団は地域とつながれる場所です。
ぜひお近くの消防団へ!

1

2

3

1.2. 春季消防演習の様子

3. 普段は農家としてりんごや桃を育てています